

## 会議録

会議の名称	平成30年度 第5回移動支援のあり方を考える勉強会
開催日時	平成30年7月25日(水) 午後2時から午後4時まで
開催場所	柳沢第三市民集会所
出席者	<p>【委員】稲垣会長、土谷委員、小川委員、町田委員、菊池委員、長谷川委員、島田委員、大安委員、金成委員、金子委員、佐野委員、高木委員、絹川委員</p> <p>【事務局】松本都市計画課長、広瀬主査、梶木主事、中村主事、亀井主事、山倉主事</p> <p>【関係部署】高齢者支援課、協働コミュニティ課、産業振興課、社会福祉協議会(ほっとネットステーション)</p> <p>【講師】荒川区役所 長野氏</p>
内容	<p>1 開会</p> <p>2 配布資料の説明について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第4回勉強会 ワークショップの概要</li> </ul> <p>3 ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動環境を改善する手法の整理、検討</li> </ul> <p>4 総括</p>
会議資料の名称	<p>資料1：第4回移動支援のあり方を考える勉強会会議録</p> <p>資料2：第4回勉強会 ワークショップのまとめ</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><u>1 開会</u></p> <p>○会長： 移動支援のあり方を考える勉強会ということで、この地域に必要なモビリティについて、皆さんで知恵を出し合いながら考えていくことが目的であるが、こういう会議は乗り物、つまり手段の話にばかり終始してしまうことが多々ある。全国的に見てもどのようにバスを運行しようかとか、どこにバス停を置くかといった細かい話ばかりが先行してしまう傾向があるが、今回の勉強会では、そもそもこの地域にお住まいの高齢の方、障害をお持ちの方、乳幼児をお連れの方がどのようにこのまちで過ごすかという将来像を描いて、その理想像を実現するためには、どういうことをこのまちでやるべきなのかを整理してきた。</p> <p>多岐に渡り皆さんからご意見を出していただき、交通や道路の話だけでなく、コミュニティや福祉的な話もしてきたが、最終的には移動支援のことを考えなければいけないので、今日は全般的な話から内容を絞っていくようにする。その際、これまで話してきた交通以外の話を排除するのではなく、交通の話にスポットライトを当てて、そこを具体化していく作業を今日からしていくというように考えていただきたい。</p> <p><u>2 配布資料の説明について</u></p> <p>○事務局</p> <p>【資料説明の要旨】</p>	

①資料1：第4回移動支援のあり方を考える勉強会会議録

- ・修正等の意見の確認 → 修正なし

②資料2：第4回勉強会 ワークショップのまとめ

- ・2つのグループ全部の意見をまとめた。
- ・まず、15年後の私たちのまち、将来像について意見交換を行った。
- ・次に現状の課題は何かという確認を行った。
- ・最後に将来像を実現させるために、具体的に何をすればよいかを考え、意見交換を行った。
- ・資料を作る際には、意見を移動、交通や道路などのカテゴリーに分けた。
- ・課題については、事務局で短期、中期、長期の課題の割振りを行った。  
なお、割振りは目安であり、その期間に必ずしも解決するというわけではない。
- ・自助、互助、共助、公助の考え方の整理をした。

3 移動環境を改善する手法の整理、検討（ワークショップ形式）

○会 長： 先ほど資料2について説明があったが、左側が15年後の私たちのまちをどのようなまちにするかということでもとめられている。移動、交通、道路、コミュニティや行政といったところは、何かを作り上げることかと思う。まちの魅力は、イメージとあるが、まちのコンセプト、目指したいまちのご意見だと思う。目的については、そもそもまちの魅力を高めないと外出意欲がわからない、といったご意見であった。このように願いも含めて、15年後のまちについて様々なご意見をいただいた。

そして、そういうまちにしていくために、右側にあるように課題はなにかを確認し、それをつなぐ手段として、真ん中の、今何をすればよいかについて皆さんに考えていただいた。

ワークショップでは、時間の流れを意識してやるようなことは少ないが、今回は長野さんの指導のもと、このような方法を取り入れた。

資料の一番上に移動、交通とあるが、先ほど私が冒頭でお話したように移動支援のあり方を考える勉強会なので、これからこの部分をもう少し具体的にしていきたいと考えている。

今日は、大きな模造紙が用意されており、その左側には15年後の私たちのまちと書かれている。前回すばらしいご意見をたくさん出していただいているが、本当に15年後にできるのか、といった内容もあるので、前回出していたご意見の中からかなり重要だと思われるもので実現性の高いものを選んでいただければと思う。また、重要だがちょっと15年では不確実だと思われるもの、30年、50年かかってしまうようなものも選んでいただければと思う。

その次に、それを実現させるためには何をするのかということを考える中で、移動支援、交通関係とそれ以外に分けていただくことに加え、今回は、誰が、誰に対して、いつ、どのようにといったかなり細かい形で皆さんのお知恵を出していただければと思う。

ワークショップにあたっては、基本的に相手の意見を否定しないこと。また、愚痴のような話やおひとりが長々と話すことがないよう基本的なルールを守っていただくようお願いしたい。

○講 師： トランジションマネジメントは、行政で取り入れられることは少なく、たいていは地域の方が集まっても、議論をして、その要望を受けて行政が何かを作って、はい終わりといった形が多い。

西東京市では、今回すべてのものが手作りで進められており、そのように進める自治体は少なく、すばらしい取組みだと思う。私も色々な自治体に携わってきたが、とても良い取組みをしていると感心している。第三者的な立場から見ても、有能なワーキングをされていると思うので、皆さんは自信を持って取組み、また発言をしていただきたい。

私の方では、第三者という立場から見えること、こうすれば上手くいきそうだなということ側面からお手伝いしたいと思う。

先ほど会長からもワークショップの説明があったかと思うが、今回15年後の私たちのまちを考える際に、なぜ実現性の高いもの、不確実なものといった分け方をしているかということ、ワーキングをしているとどうしても自分の想いや地域の愛着などといった色々な感情が混ざってしまいがちなので、まずはその感情の分類をしていただきたい。なんとなくこれならできないかとか考えていることをひとりで抱えるのではなく、グループの中で話して、それが初めて客観的に実現性が高いかどうかということをお話せるようになる。不確実なものでも、少し手を加えれば、もしかしたら実現できるかもしれないということがあれば、そのことについても書いてほしい。今回は、前回出した意見について全てをひとつひとつ話し合うことができないので、自分の中で3つぐらい、これはと思うものを考えていただきたい。

その後、真ん中と右側の具体的に何をするか、誰が、誰に対して、いつ、どのように実現させるかについては、皆さんが提案したことを実際に施策にするイメージで考えていただきたい。地域の皆さんでこのようなワークショップをやって、地域で提案していくということはなかなかできることではない。西東京市としてもそれをやってみたいと考えているようなので、すばらしい取組みだと思う。

大体いつもここで失敗してしまう事例としては、要望だけ受けて、行政が考えて、それが実際できるかどうか判断つかないまま、なんとなくこれでいだろうという消去法で決められていく施策を選択しがちで、全国色々な自治体がそうなっている。そうならないように、今回は皆さんの方で色々出された意見から選択できるようになっているので、そこからさらに考えを膨らませて、よりどうすれば実現できるのかということ自ら考えていただきたい。

これは、住民参加というよりは住民参画ということで、皆さんが行政の意思決定に関わるということである。形式だけの参加ではなく、これは完全に施策の決定に繋がるものなので、是非皆さん自信を持って発言していただきたい。

#### 【ワークショップ】

①15年後の私たちのまち：実現性の高いもの、不確実なものを整理

○講 師： 活発な意見交換ができています。加えて実現性の高い意見も出てきていて、

聞いていて楽しい。

どちらのグループにも言えることだが、交通ということでどこかに「行く」ことの意味が多く、「来てもらう」という観点で、場所を用意して、皆さんで近くの場所まで出て行くという考えもあるが、そちらはあまり出ていなかった。

ただ、このようなワークショップを行うと行政に何かしてほしいという意見ばかりになりがちであるが、前回からこの勉強会では自分達で何かしようという意見が結構出てきており、非常に興味深いと感じた。

- ②具体的に何をするか？：移動支援・交通関係とそれ以外に整理するとともに、誰が、誰に対して、いつ、どのように実現させるかについて検討する。

### 【ワークショップの発表】

#### [1 グループ 発表]

##### ①15年後の私たちのまち

- ・コミュニティに関する意見がかなり多く出た。
- ・農家などの無人販売所のように、立ち寄れる場所があるとよい。
- ・徒歩圏内に生活の困りごとを解決できる場所があるとよい。
- ・車の技術革新、それから交通規制の意見もあった。
- ・自動運転については、個人だけではなく、はなバスも自動運転になるとよい。
- ・はなバスが通れない場所があるので、交通規制が緩和されるとよい。

##### ②具体的に何をするか？（誰が、誰に対して、いつ、どのように実現させるか）

- ・広告収入を移動手段の資金にする。
- ・交通規制に関して、一方通行にするには、沿線に住んでいる方々の同意が必要なので、頑張って同意を取ってはなバスの試験運行を行う。
- ・デイサービスの車や福祉バスが昼間の時間空いているので、使えないか検討する。
- ・歩いて外出したときに、途中で休憩場所を作る。（ベンチや公園などに健康器具を設置する。）
- ・バス停の近くに駐輪場を作る。公共のスペースばかりでなく、空き家の庭などを活用できるよう協力してもらう。
- ・行政に調べてもらったり、調整してもらったりすることもひとつだが、社会福祉法人、NPOや実際に住んでいる私たち住民が主体となって行動を起こすことも必要である。
- ・対象者については、高齢者、障害者、子育て世代というカテゴリーもあるが、縦割りに考えるのではなく、皆さんが暮らしやすいよう考えた方がよいと思った。
- ・高齢の親の買物などをお子さんがサポートされている場合もあるが、1日1回でも良いのでバスを通してほしい。
- ・バスだけではなく、他の手段もあるのではないか。

#### [2 グループ 発表]

##### ①15年後の私たちのまち

- ・実現性の高いものをグルーピングした。
- ・バスの小型化、複数人での移動、キッチンカーやスーパーが地域にやってくる。
- ・行先を変える。例えば、遠くに行くのではなく、近くの飲食店で食材を買ってきてもらったり、そこで食事を作ってもらったりする。
- ・自動運転の技術ができています。
- ・カーシェアを行う。
- ・地形的に平坦な東西の移動をスムーズにする。
- ・道路の拡幅のためにセットバックを行う。

②具体的に何をやるか？（誰が、誰に対して、いつ、どのように実現させるか）

- ・移動の目的の分担は行政が担う。
- ・時間帯別で移動する人を管理する。例えば、病院で救急の方は9時から診療し、慢性的な方は10時から診療するようにする。そのために、行政が病院に働きかけを行い、地域の方は時間のルールを守る。そして、事業者はデマンドタクシーなどを走らせ、相乗りで行く。
- ・高齢者が時間帯で集まって一緒にデマンドタクシーなどを利用してもよい。
- ・規制緩和により、コンビニが住宅街にどんどん建てられるようになったので、そこを拠点とする。
- ・バス停まで自転車で来て、そこから乗り換える。坂を越えて一番近いバス停に行くのではなく、少し遠くても平坦な道を通ってバス停にいけるようになる。
- ・バス停近くの公共施設の駐輪場を利用する。
- ・地域でグループ作りをする。
- ・地元でキッチンカーを増やすために、事業者がキッチンカーを運行する人を育成する。また、キッチンカーが来るときに必要なものを一緒に買ってきてもらう。また、そこで食事を作ってもらおう。
- ・人力車のような、自転車で人が乗れる車を引っ張る乗り物を取り入れる。
- ・コンビニがオートバイで宅配をしてくれる。
- ・地域の人が店番をすることで、お店の人が配達に行くことができるようになる。
- ・移動スーパーの店番を地域の人が行うことで、スーパーの人がマンションの高層階に住んでいる移動の困難な人のお宅に配達ができるようになる。
- ・ひとつのお店をシェアして、曜日や時間帯別にいろいろな使い方をする。

[講評]

○講師： 1グループの方は、具体的に誰に対してどのようにしていくという意見が出ていた。2グループの方は、可能性も含めて、ソフト的な意見とハード的な意見の両方をどうしていくかについて意見が出ていた。

いずれにしても制度や政策の部分を皆さんが分からないまま意見交換をしていたのではないと思うが、内容はかなり集約されてきており、実現できそうなところとそうでないところの整理ができてきている。

今回は、行政から皆さんに具体的な方法の提示があると思うが、今日皆さんはかなりよい議論をされているので、次回に有効活用していただきたい。

○会長： 長野さんと事前に話し合っていたよりも想定を超えて良い議論がされていた。どうしても交通手段の話だけをすると、どんな乗り物で、どこを通

て、どこに停まるかといった議論だけになってしまうが、きちんと話をすれば、今回のように移動の話だけではない議論となる。

移動は二次的な行為であり、今回の勉強会では、生活をするためにどのような人たちが、どのような移動をしているかを多様に考えられていると思う。必ずしも新しい移動の乗り物を取り入れなくても、空き家を活用して駐輪場を作れば移動意欲が高まるといった議論が皆さんから自発的に出てきているのがすごいと思った。他の自治体を見ていると、地域の方から自発的にこのような意見が出てくることはなかなかない。質の高い議論がされてきたのだと思う。

今回は、実際の法的な規制等を踏まえながら、どこまで何ができるのかを、行政から資料を提示していただきながら、この地域に合うシステムや支援を考えていきたい。

#### 4 その他

○事務局： 今回は、8月28日火曜日の午後2時から4時に、柳沢第三市民集会所で行う。稲垣会長からもお話があった通り、事務局の方で現在の法制度等の中でどのようなことができるかをまとめており、その資料を基に、これまで開催してきた勉強会の成果とリンクさせていきたいと考えている。

今回の勉強会では、移動支援の実施を前提に、いよいよこの地域に合った移動支援のあり方について具体的な議論を行いたいと考えているので、皆様からのご意見をいただきたい。

なお、本日お配りした「お出かけ支援通信」を自治会、町内会を含めて、昨年度アンケート調査に御協力いただいた約2,000世帯に職員が配り始めている。ただ、地域の全ての方にお配りできないので、皆様の方からも近所の方に、このようなお知らせを配布していることや勉強会の資料をホームページからご覧いただけることをご案内いただくよう是非お願いしたい。

○会 長： それでは本日の勉強会は終了させていただく。ありがとうございました。

以上